

医療サービスの改善と安全性向上のための 知識循環モデルの適用実証

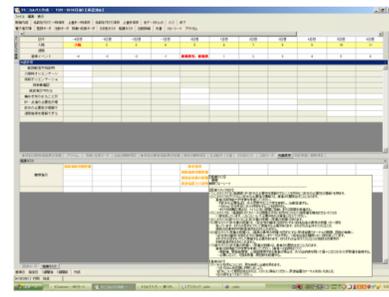
クリニカルパスとは？

病院内で行われる一連の医療行為について、典型性のある部分について標準化したもの。医師や看護師など多様な専門職の知識を融合して作成され、病院内の知識共有をはじめ、以下に貢献するものと期待されています。
(医療工程管理・医療の標準化・チーム医療・医療の効率化・リスクマネジメント・医療経営)

既存クリニカルパス

項目	検査前日	誕生後前日
達成目標	熱が37.5℃以下である	・熱が37.5℃以下である ・血圧が安定している
治療・薬剤 (点滴・内服・処置)	・医師の指示に従います ・眠れない場合はご希望があれば安眠剤を飲んでいただきます	・何か薬を飲む場合は、朝は普通どおり飲んでください。昼は中止してください。 ・11時ごろ、主治医が診察をしに来ます ・夜間の外来に移動します。 ・検査前に緊張と痛みを和らげる注射をします
検査	・採血があります ・胸筋と腹部のレントゲンがあります ・心電図があります	午後から誕生後が始まります
活動・安静度	特に制限はありません	特に制限はありません
食事	制限はありません	・朝食は食べてください ・昼食は夕食になります
清潔	検査前までに入浴を済ませてください	

電子カルテシステム



医療サービス概念の体系化



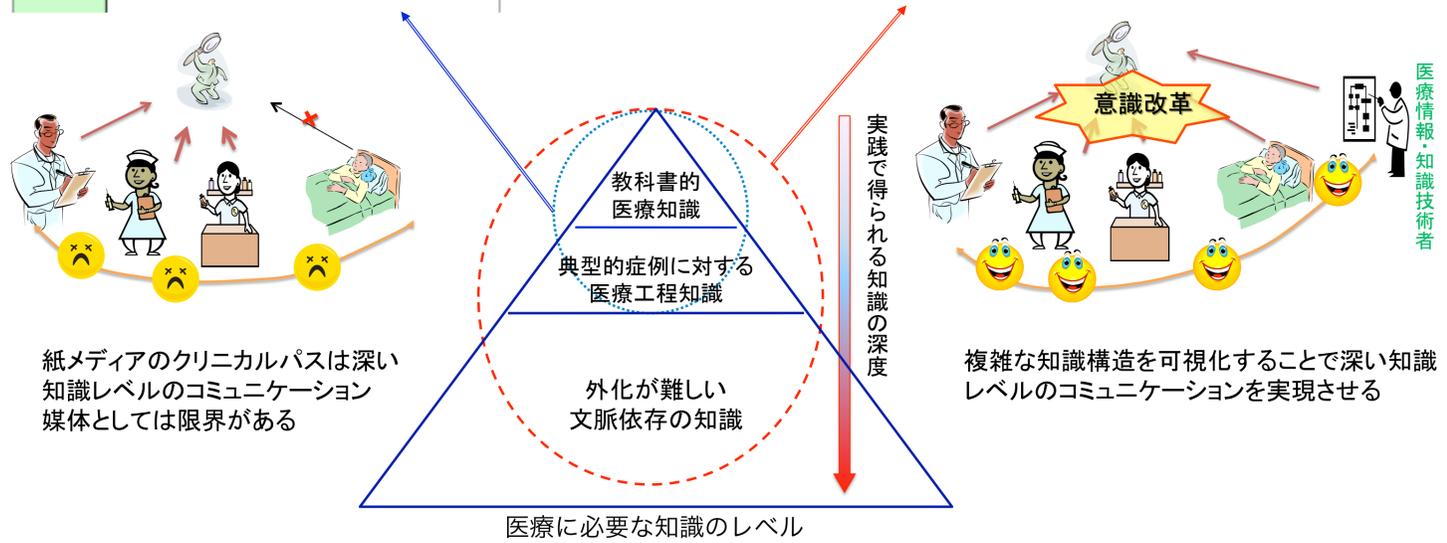
- 1) 対象知識の共通化・体系化
- 2) 合意を得るための手段
- 3) 暗黙的な情報・知識の可視化
- 4) 知識の共有・再利用

懸念されている問題

- ・医療を画一化するのでは！？
- パスの適用は、患者ごとの事情を無視することにつながるのでは？
- ・考えない医療スタッフを生むのでは！？
- パスに従ってれば良いと考えが蔓延し、現場が柔軟に対応する力を奪うのでは？

知識循環を可能にする次世代パス

パスに表現される医療行為を、それらの相互の結びつき・それをやる理由・込められる思いや価値観までを含む「コト」として捉え、医療サービスの概念化に基づくモデルとして表現する。このモデルを基礎として、パスの作成・運用における知識の収集・体系化と現場教育の仕組みの実現をめざしています。



知識循環モデルを内包したパス作成・運用支援による医療サービスの向上

- 実現に向けた課題 -

1. 医療行為の「コト」としてのモデル化

パスに記載される医療行為について、相互の関係性・設定意図・さらにそれを支える価値観までを含めて表現するためのモデル化の枠組みを構成します。これを基礎としてパス作成の議論の円滑化、知識の採取・体系化の支援機能を実現します。

2. 「コト」としての医療知識の提供と気づきの採取

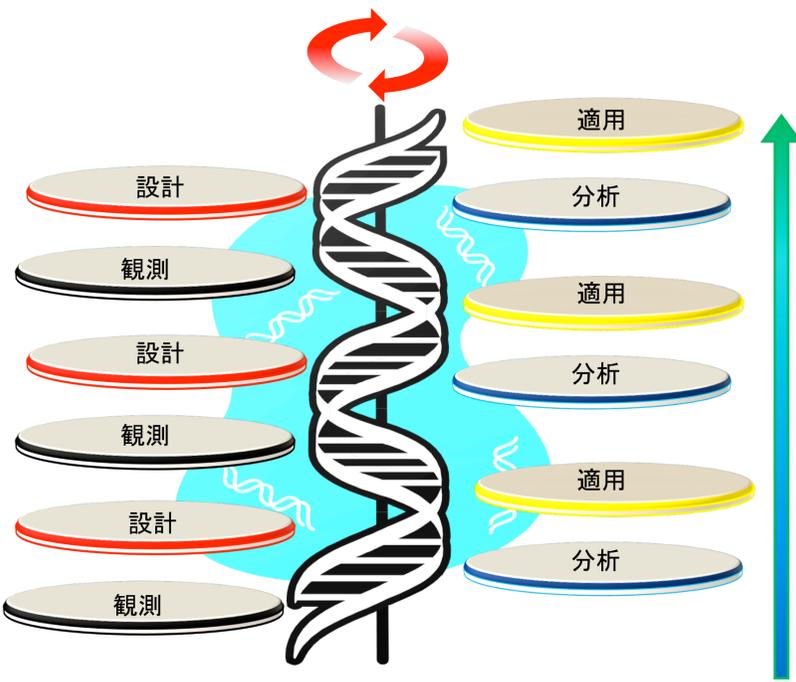
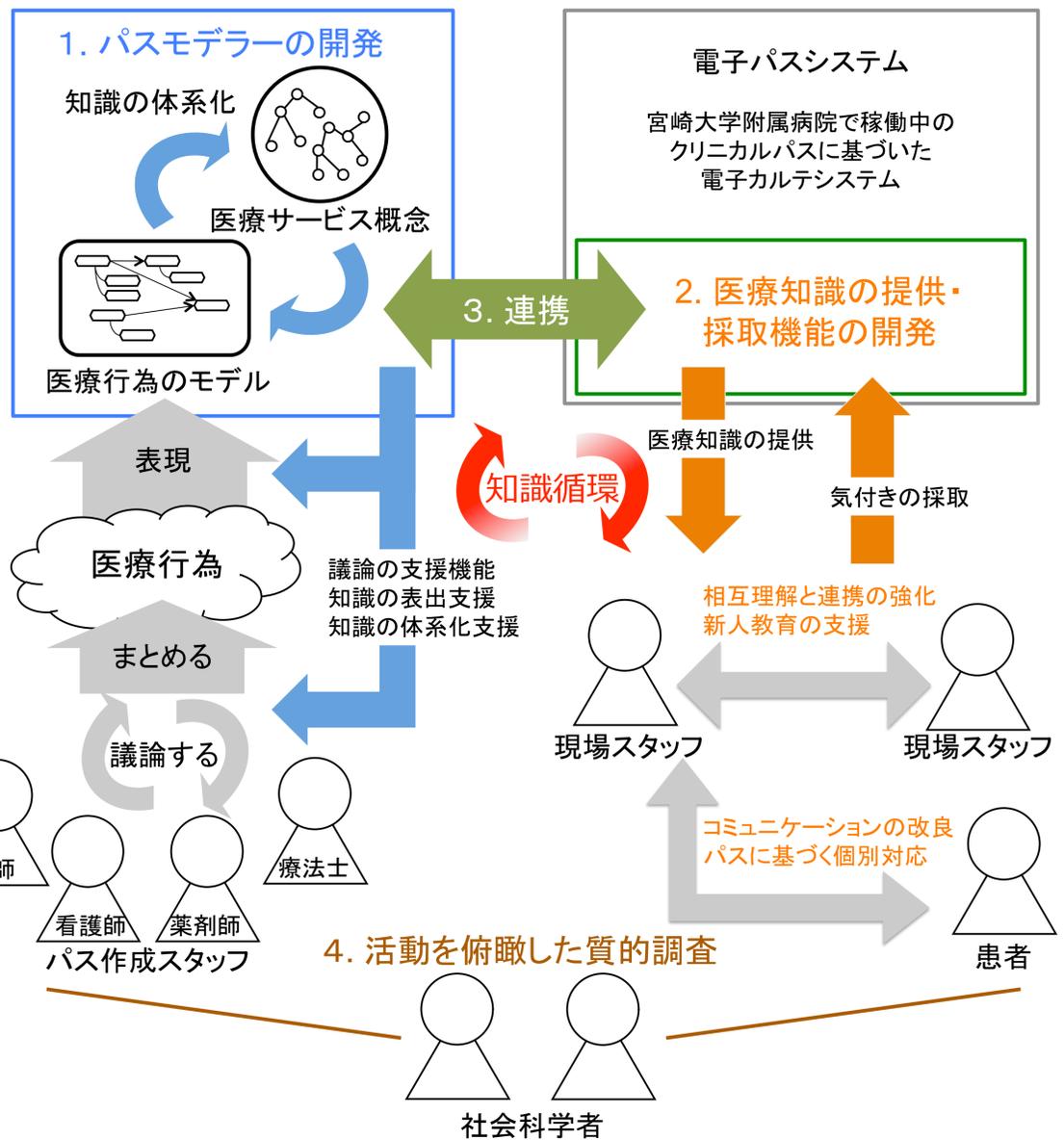
その医療行為を「なぜやるのか」という医療目的に立ち返った医療知識の提供により、医療チーム内の相互理解・教育を支援し、医療サービスの質の向上につながる気づきを現場に促します。

3. 既存の活動・ITシステムを尊重した融合

医療現場での実践は多くの暗黙知を含んでいます、システムを既存の活動に整合するようにデザインします。

4. 活動全体をシステムとみなした検証

医療現場は極めて複雑なシステムといえます。システムの効用は活動を俯瞰する視点で検証します。



医療現場の知のスパイラル

医療行為のモデル化を基礎にして、医療プロセスがスパイラルに設計・改良されることを支える

- ・エビデンスベースの標準プロセスとして設計
- ・医療現場に適用
- ・現場の医療従事者による客観的な観測
- ・観察で得た情報を統計学的手法で分析

